



牧陵新聞

横浜市中区常盤町3丁目24
 横浜緑ヶ丘高等学校同窓会
 牧陵会 ☎045-664-9020
 ホームページ URL
 bokuryoukai.com
 メールアドレス
 bokuryoukai@gmail.com
 年会費等振込先(郵便振替)
 □座番号 00250-7-69300

- 創立102年 次の100年に向かって、母校100周年事業を推進しましょう
- 100周年記念募金に多大なご協力をいただきありがとうございます
 一般募金13,056,262円、まなびや募金11,896,000円、合計24,952,262円の
 募金をいただきました。今後とも、ご協力を宜しく願います



100周年
記念式典
2025年5月23日
に決定!!

新年の挨拶

牧陵会会長 直井 ユカリ (高32期)



新年明けましておめでとうございます。
 牧陵会会員の皆様におかれましては、穏やかなお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。日頃から会の運営及び各種事業の実施に対し、ご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、個人的には6月に縁あって牧陵会会長に就任して以来、自らの高校生活を思い起こすとともに、同期生はもちろん世代を超えた同窓の方々との会、語り合う機会を多く得ることができました。そして、この「新たな出会いと繋がり」には大きな意義を感じております。また、牧陵会としては2023年に横浜緑ヶ丘高校が創立100周年を迎えたことを機に記念行事が開催されました。中でも、9月23日(祝)の「ぜんりよく音楽祭」は、世界的にも活躍されている同窓生音楽家の皆様にご出演いただくばかりか、舞台演出、司会進行、当日の運営スタッフなど、すべてが緑高卒業生(牧陵会会員)により催行されました。また、現役高校生も参加してくださり、ブラスバンドやクラシックギターの迫力ある素晴らしい演奏を披露いただきました。会場は、多くの同窓生で大盛況。「全力」かつ「全緑」の「ぜんりよく音楽祭」に、改めて牧陵会の豊富な人材と脈々と受け継がれる緑高パワーに感銘を受けました。

一方で、前号の「牧陵新聞」(8月発行)が、あて所不明で約300通も返送されていることを目の当たりにしました。転居等の際に牧陵会に届けを忘れていた方、牧陵会とは距離をおきたい方、特に理由がなく不明になっている方など理由は様々かと思いますが、返送された郵便物の大きな山には心が痛みます。強弱はあろうとも同窓生と繋がっていくことは、自らの世界も広がりますし、ビジネスにおいてもパートナーとして相互に高め合う機会になると思います。部活や同期生の繋がりを軸に牧陵会という同窓会組織にも関心を広げていただきたいと切に願っています。

本年も、イベントや講演会など会員の皆様にご参加いただける企画を立ててまいります。皆様方にはお忙しいこととは存じますが、各行事にご参加いただけますとともに行事に合わせて同期で集まるなど、旧交を温める場としていただければ幸いです。

今後とも役員一同、緑高及び牧陵会発展のために力を合わせて尽力してまいりますので、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

この1年の皆様のご健勝、ご発展を祈念し、新年のごあいさつにさせていただきます。

100周年記念事業ご支援への感謝

校長 坂元 久美子 (高35期)



新年のご挨拶を申し上げます。
 牧陵会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

建設中の新体育館は、ようやく第一期工期が完了し、外観が見えるようになりました。館内設備の設置、外周の整地整備と完成までの作業はまだ残っていますが、来る3月の卒業式は新体育館で、と急ピッチで工事を続けていただいています。その中で残念なのが、新体育館に冷暖房の設備がないことです。昨年は10月を過ぎても半袖にクーラーという日もあり、「これは亜熱帯のようだね」と話すほどでした。近年の暑さを思うと「冷房がない新体育館」で十分な活動ができるのか、という懸念がありました。

県の事業で、県立学校等の教育環境整備を目的とした「神奈川県まなびや基金」というものがあります。100周年記念事業に係るご寄付等を「まなびや基金」としていただき、本校の教育環境整備が進められます。その活用項目の一つとして、昨年前半に「大型冷風機」8台を購入いただきました。

昨年の6月22・23日、生徒たちが最も楽しみにしている学校行事の一つ、緑高祭(文化祭)では、真夏日が心配される中、早速「大型冷風機」が活躍しました。広範囲に届く冷風で、演奏や発表を行う生徒たち、観覧の皆様ともに体調不良はなく、快適な状態で思い出の時間を過ごすことができました。その後も、体育館での授業、部活動、学年集会等で活用しております。来年度以降も猛暑日が続くことが推測される中、とてもありがたい備品をご支援いただきました。本当にありがとうございます。

また、100周年記念事業の「まなびや基金」の今後の活用先として、老朽化した生徒会館の修繕整備をご検討いただいておりますが、予算が不足しております。こちらもできましたら、引き続きご支援をお願い申し上げます。

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、学力向上進学重点校として、生徒たちは、授業も行事も部活動も全て「探究」「挑戦」「対話」を軸に日々の学びに励んでいます。強いられることなく自ら意思決定できる、自分も他者も等しく大切にす他者尊重あってこそ自由を、今後も緑高で育んでいきたいと思っております。

現在、そして、これからの緑高生への応援を、今後ともよろしくお願いいたします。

CONTENTS	page	P1 : 会長挨拶、母校より	P8~9 : 新任部長抱負	P15 : クラブOB会だより
	P2 : 母校100周年 記念募金 経過報告	P10 : 青春スクロール	P16 : 事務局より	
	P3 : 緑高情報	P11 : 校史資料		
	P4~7 : 横浜緑ヶ丘高校創立100周年記念 牧陵緑のフェスティバル ぜんりよく音楽祭	P12~13 : 日日は好日		
		P14 : 同期会だより		



母校100周年 記念募金 経過報告



100周年記念募金ご協力のお礼

令和5(2023)年に100周年を迎え、記念募金をお呼びかけし、多くの卒業生に加え、保護者、在校生からもご協力をいただき、2024年11月時点で約2,500万円のご協力をいただいております、皆様のご協力に感謝申し上げます。

100周年事業は記念イベント及び記念誌などの記念事業費に3,000万円、学校の教育環境整備に3,500万円で合計6,500万円の総事業費を計画し、収入は後援三徳会から1,500万円を拠出いただき、5,000万円を卒業生などからの記念募金によることとしています。

この事業費で、記念のイベントとして、100周年記念のぜんりよく音楽祭を実施し、在校生に記念品を配布し、学校行事の芸術鑑賞会も100周年記念として特別編成の合奏団による演奏会を開催しました。また、100周年記念誌の編集を進めており、記念式典の前後には発行の予定です。そして記念式典は新装の体育館を会場として開催予定で、在校生・教職員に加え、卒業生、保護者も一部参加して開催されます。

以上に加えて記念募金の案内状送付など事務諸費も含めて記念事業費は予定した額により実施できる見込みです。

本校の100周年では、期を同じくして、神奈川県により体育館の大規模立替えが進められ、それが100周年記念ともなります。また、体育館の整備に合わせて校地の整備も図られます。更に、食堂の改修も県により進められています。

ただ、新体育館には冷房設備がないことから、大型の冷風機を設置し、新体育館内の部室に入りきれない部室は現在の生徒会館を引き続き使用するため、生徒会館の環境向上のために改修を計画しています。以上の経費は記念募金によることとしています。頂いた募金で冷風機を購入し、すでに現在の体育館で使用し、好評を得ています。

頂いている募金で、記念式典などの記念事業費については対応できるようになりましたが、生徒会館の改修にはまだまだ十分ではありません。引き続きのご協力をお願いします。

令和6年11月1日

横浜緑ヶ丘高等学校100周年事業委員会

委員長 池田 加津男 (牧陵会)

副委員長 大竹 幸代 (後援三徳会)

副委員長 坂元 久美子 (横浜緑ヶ丘高等学校)

体育館新築工事進捗



冷風機使用開始

創立100周年記念募金のご報告

2024/11/30迄 入金金額：2,050件 **24,952,262円**

【集計整理額】

卒業期別

卒業期	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)
中学15	1	5,000	1	5,000	2	10,000
中学16	0	0	0	0	0	0
中学17	0	0	0	0	0	0
中学18	2	40,000	0	0	2	40,000
中学19	3	13,000	1	5,000	4	18,000
中学20	3	45,000	0	0	3	45,000
中学21	0	0	1	10,000	1	10,000
高校*1	7	43,000	0	0	7	43,000
高校*2	7	53,000	1	30,000	8	83,000
高校*3	8	62,000	2	35,000	10	97,000
高校*4	9	86,000	1	10,000	10	96,000
高校5	14	87,000	6	25,000	20	112,000
高校6	18	121,000	4	72,000	22	193,000
高校7	23	280,000	7	74,000	30	354,000
高校8	19	115,000	5	124,000	24	239,000
高校9	13	76,000	8	53,000	21	129,000
高校10	25	145,000	9	118,000	34	263,000
高校11	29	205,000	15	177,000	44	382,000
高校12	44	435,000	8	129,000	52	564,000
高校13	59	381,000	22	384,000	81	765,000
高校14	33	278,000	7	109,000	40	387,000
高校15	45	457,000	14	241,000	59	698,000
高校16	30	205,000	12	149,000	42	354,000
高校17	37	427,000	16	322,000	53	749,000
高校18	83	859,000	30	437,000	113	1,296,000
高校19	49	448,110	17	282,000	66	730,110
高校20	45	278,000	29	269,000	74	547,000
高校21	53	939,000	16	305,000	69	1,244,000
高校22	45	276,000	26	295,000	71	571,000
高校23	22	113,000	10	195,000	32	308,000
高校24	46	366,000	20	231,000	66	597,000
高校25	43	215,000	22	138,000	65	353,000
高校26	35	229,000	18	124,000	53	353,000
高校27	38	1,422,000	24	477,000	62	1,899,000
高校28	32	247,000	17	405,000	49	652,000
高校29	46	279,000	24	850,000	70	1,129,000
高校30	33	227,000	12	165,000	45	392,000
高校31	23	216,000	17	619,000	40	835,000
高校32	19	137,000	14	205,000	33	342,000
高校33	15	91,000	20	228,000	35	319,000
高校34	20	144,000	20	237,000	40	381,000
高校35	21	259,000	19	462,000	40	721,000
高校36	16	104,000	14	232,000	30	336,000
高校37	23	228,000	14	173,000	37	401,000
高校38	16	108,000	16	223,000	32	331,000
高校39	16	126,000	8	104,000	24	230,000
高校40	5	47,000	3	65,000	8	112,000
高校41	5	135,000	8	107,000	13	242,000
高校42	15	171,000	11	143,000	26	314,000
高校43	6	143,000	13	230,000	19	373,000
高校44	5	45,000	6	100,000	11	145,000
高校45	6	42,000	3	110,000	9	152,000
高校46	11	97,000	9	1,247,000	20	1,344,000
高校47	1	10,000	1	15,000	2	25,000
高校48	4	32,000	2	30,000	6	62,000
高校49	2	15,000	0	0	2	15,000
高校50	3	13,000	2	38,000	5	51,000
高校51	5	40,000	1	10,000	6	50,000
高校52	4	31,000	4	107,000	8	138,000
高校53	1	10,000	2	30,000	3	40,000
高校54	4	37,000	0	0	4	37,000
高校55	4	21,000	4	70,000	8	91,000
高校56	5	23,000	2	2,000	7	25,000
高校57	1	5,000	0	0	1	5,000
高校58	1	5,000	4	41,000	5	46,000
高校59	8	64,000	2	41,000	10	105,000
高校60	1	5,000	0	0	1	5,000
高校61	4	8,000	1	5,000	5	13,000
高校62	4	26,000	2	25,000	6	51,000
高校63	7	46,000	3	80,000	10	126,000
高校64	3	40,000	4	50,000	7	90,000
高校65	3	22,000	0	0	3	22,000
高校66	2	15,000	1	6,000	3	21,000
高校67	1	3,000	2	25,000	3	28,000
高校68	6	43,000	5	51,000	11	94,000
高校69	6	44,000	2	13,000	8	57,000
高校70	1	2,000	6	110,000	7	112,000
高校71	4	12,000	1	5,000	5	17,000
高校72	8	48,000	2	41,000	10	89,000
高校73	3	16,000	2	20,000	5	36,000
高校74	5	10,000	2	6,000	7	16,000
高校75	3	22,000	2	50,000	5	72,000
高校76	3	35,000	3	35,000	6	70,000
卒業生計	1,328	12,253,110	662	11,636,000	1,990	23,889,110
在校生	25	260,000	23	260,000	48	520,000
その他	12	543,152	0	0	12	543,152
合計						
	一般募金		まなびや募金		合計	
	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)
	1,365	13,056,262	685	11,896,000	2,050	24,952,262



電子工作と基礎プログラミング講座

東京科学大学情報理工学院教授 渡部卓雄 (高34期)

緑高は2022年度から文科省のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) の指定を受けており、理数教育に関するさまざまな取り組みを行っています。そのような取り組みの一つである「緑のミニツアー」として、2024年8月7日に東京工業大学 (現・東京科学大学) において「電子工作と基礎プログラミング講座」を実施しました。

現在、家電製品から自動車、工場など、大小様々な機器にコンピューターが組み込まれています(「組み込みシステム」といいます)。この講座では、組み込みシステムの理解を深めることを目的に、マイコン(マイクロコントローラー)を使った簡単な電子工作とプログラミングの実習を行いました。

実習に参加した生徒は6名で、引率の先生方2名とともに4つのチームを作り、それぞれマイコンやセンサーなどを使った回路をブレッドボード上に組み立て、MicroPythonによるマイコンのプログラミングに挑戦してもらいました。LED(発光ダイオード)を点滅させるだけの簡単なものから、各種センサーで計測したデータを有機EL表示器に出力するもの、マルチタスク(複数の処理を同時に行うこと)を行うもの等、多くの課題を全チーム無事に終えることができました。生徒にも先生方にも楽しんでもらえたようです。



第19回 青春かながわ校歌祭に参加して

横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団 団長 佐藤 颯 (高73期)

9/21(土)に開催されました第19回青春かながわ校歌祭に参加しました。今年は、有志による合唱団と今年度結成しました横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団、そして現役のチアリーディング部の総勢約60名での出演となりました。

新設の吹奏楽団は社会人や大学生で構成されているため、なかなか都合が合わず今回の全体練習はなんと本番直前のリハーサルのみとなりました。合唱の皆様は緑高にて合わせをされ、吹奏楽団は定期演奏会に向けての通常練習の際に時間をとって練習するという形となり、お互いに不安と期待とを抱えつつ本番の日を迎えました。

今年は高23期で緑高にて教鞭を執られていたこともある片倉正一様に指揮をしていただき、また緑高校歌・三中校歌ともに新アレンジを書き下ろしていただきました。三中校歌はより当時の雰囲気や踏襲したもの、緑高校歌は吹奏楽がよりいっそう華やかに輝くアレンジとなりました。

本番当日は、これまで合わせをしたことがないということが信じられないほどに合唱と吹奏楽隊の息の合った演奏となりました。本番前や移動中には自然と交流も生まれ、世代を超えた緑高の繋がりを大変強く感じる事ができました。



令和6年度 緑高セミナー

小松崎 敏彰 (高21期)

今年度の緑高セミナーは10月26日(土)、11月19日(火)の2回が開催されました。

第1回は高校15期の岡野隆男さんが、昭和37(1962)年に校庭拡張工事が行われた際、緑ヶ丘高校内で発見された平台貝塚で高校在学中遺物を採集、早稲田大学進学後の発掘調査などについて、発掘が学術的価値があるか、発掘の記録の重要性などをわかりやすく講演され、また縄文時代の歴史的スパン(5千年以上も前)、緑ヶ丘一帯の古代の地形の話など興味深い内容でした。

学校に保管されている発掘した土器片、貝殻などはぜひ校史資料室に展示、保管することを提案したいと思います。



第2回は高校30期横浜国立大学経営学部教授 小林正佳さんに「大学進学前にちょっと考えてみよう」と題し学ぶことの意義や学問・科学のエッセンスについての講演でした。

大学とは多様性を許す場所「自由の空間」であり、経験的調査と理論化を通して理論・概念を作り出す所で、先生のご経験をもとにお話されました。

大学受験にわき目もふらず邁進するのが王道で、何かひっかかるものがあれば、家族・先生・友人に話すこと、自分の幸福を追求しよう、が結びでした。多くの現役生に聞いてもらいたかったと思います。



♥ ホームカミングデイ

11/2 ホームカミングデイを開催しました。雨模様で参加者は少数でしたが懐かしい学校の地を訪れ、築後60年の部室(改修予定)、解体される体育館をつぶさに見ることができました。

校庭では雨の中サッカーの試合があり、また体育館では午前はバレーボール、午後はバスケットとチアリーディングが練習、管弦楽の練習では、芸術鑑賞会の演奏グループからバイオリニストの演奏指導がありました。活発な部活の様子を見学することができました。

本年度は学校見学会という形での開催でしたが、来年度は新体育館でのイベントを含めて牧陵・緑のフェスティバルとして開催を計画しています。





横浜緑ヶ丘高校創立100周年記念 牧陵緑のフェスティバル

ぜんりよく音楽祭

横浜緑ヶ丘高校創立100周年記念事業の一つとして、同窓生による音楽祭を開催しました。

出演者は多くの卒業生演奏家と、100周年を記念してこの音楽祭のために結成された合唱団、卒業後も演奏活動を続けているOB・OG、そして、在校生の吹奏楽部とクラシックギター部など、200名を上回り、まさに全ての緑ヶ丘高校生が「全力」を発揮したコンサートでした。



第1部 ~素晴らしき緑高の伝統~

卒業生演奏家による演奏

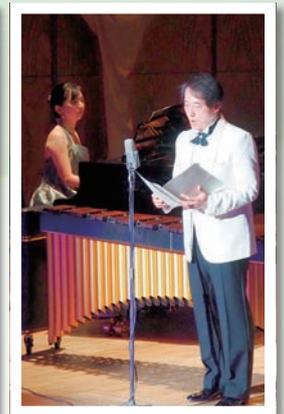
- マリンバ：市瀬孝子、竹下利子 ベートーベン第9交響曲より「歓びの歌」
- 創立100周年記念合唱団（在校生4名を含む約60名）混声合唱組曲「水のいのち」より雨・川・海よ



第2部 ~知られざる緑高史~

旧制中学校として開校してから緑ヶ丘高校になるまでの波瀾の歴史を、琵琶の語りと時代を表す唱歌などで綴ります。

- テノール：篠崎義昭
- バリトン：齋藤渉、鴨川太郎
- ソプラノ：小島和子、町田信子、湯川奈美
- 琵琶と語り：室井三紀





第3部 ~輝ける緑高の未来へ~

新進気鋭の演奏家と在校生演奏

- (1) 海外を拠点として活動している若手アーティストの演奏
Times Goes By (鈴木瑤子:作曲) ピアノ:鈴木瑤子
- (2) 在校生の演奏
クラシックギター部 (27名)
吹奏楽部 (90名)
- (3) 吹奏楽部OBOG
木管アンサンブル



- ◆ ぜんりょく音楽祭実行委員会委員長
中山 敏 章【高22期】
- ◆ 企画
小 島 和 子【高17期】
島 田 桂 子【高22期】
小 林 道 昭【高28期】
室 井 三 紀【高29期】
吉 田 祐 美【高34期】
鴨 川 太 郎【高35期】
- ◆ 舞台進行
久保田 芳 樹【高21期】
- ◆ 構成
岸 本 宙【高45期】



創立 100 周年記念 ぜんりよく音楽祭

「ぜんりよく音楽祭」の開催 中山 敏章 (高22期)

母校創立100周年記念として、「ぜんりよく音楽祭」を9月23日に県立音楽堂で開催しました。「ぜんりよく」とは全ての緑高生が、全力で100周年のコンサートを行うということで、命名しました。

私は、牧陵会側の担当として4年前から企画に関わってきたのですが、コロナによる中断もあり、なかなか固まらず、PRチラシは出演者名だけという異例なものとなりました。

そのような状況でのチケット前売活動でしたが、出演者や役員の皆さんの口コミを中心に、牧陵会のホームページやミニコミ誌でのPRに加え、入場料の支払いにペイパルを導入したことが予想以上に効果があり、会場の半分以上は埋まると見込んでいました。

当日は、お彼岸とは思えない暑さの中、開場前から多くの方がお越しになり、開場を早めたほどで、会場は約700人の観客で満員となりました。

コンサートは、クラシックを中心として、第1部は緑高の伝統を築き上げた卒業生の演奏。第2部は「知られざる緑高史」と題して、旧制中学から緑高になるまでに2度の廃校の危機があったことを、琵琶の語りと時代背景を示す歌で綴り。第3部は輝ける緑高の未来に向けて、在校生など若手の演奏という構成で、海外で活躍中の演奏家にも出演いただきました。企画や舞台進行などを卒業生が行い、15歳の在校生から80歳の卒業生まで200人を超える出演者による手作りコンサートとなりました。

フィナーレは、吹奏楽部の伴奏で出演者と観客が一体となって緑高校歌を全員合唱、会場の盛り上がりは最高潮となりました。歴史あるホールで、緑高の100周年のお祝いを多くの方と迎えることができ、来場者からも好評を頂いたことで、苦勞が報われた思いです。出演者をはじめ、様々な形でご協力いただいた同窓生の皆様に感謝します。



「ぜんりよく音楽祭」に参加して

先日の「ぜんりよく音楽祭」、出演させていただきありがとうございました。9月の初めに東関東吹奏楽コンクールが終わって3年生が仮引退し、1、2年生の新メンバーになったばかりでしたが、当日演奏した曲につきましては夏休み中から練習を始めておりましたので、なんとか本番に間に合わせる事ができました。演奏会のプログラムを開けばすぐ伝わってくるのが、圧倒的な卒業生の方々の多才さ、層の厚さです。さすが100年の歴史を刻んだ学校ならではのものだと思います。そこへ現役の緑高生も参加し、演奏会の最後に唱和した校歌の響きとともにこの歴史に新しい1ページを加える、こうしたことによって緑高の暖かい校風が受け継がれていくのだと思います。今回のような形の演奏会では、出演者が演

音楽祭を振り返って

緑高創立100周年記念合唱団発起人 市原 義国 (高18期)

9/23に開催された音楽祭に60名の編成で舞台上に立てたことは団員たちにとって一生の思い出となる出来事でした。

思えば、牧陵会本部が昨年早々に音楽祭を決めた時、牧陵合唱団としてどのように参加するのかを考え、団員数が減少している状況で悩みました。

そもそも、牧陵合唱団は30年前(緑高創立70周年)に今回と同様に記念音楽祭(於、みなとみらいホール)が開催された時を契機に、篠崎義昭先生を指揮者としてOB・OGに声かけして50名ほどが集まり参加したのが始まりでした。音楽祭が終了した後も、このまま解散するのは忍びないと思う有志が約半数残って「牧陵合唱団」を立ち上げたのでした。今は30年が過ぎて高齢化が進み、16名となりました。

そこで、一念発起して、今回も30年前と同じ運動を起こすことにしました。参加者募集のチラシを作成して3月から運動を開始しました。練習は6月からの4ヶ月間(計9回の練習)と決めました。5月には総勢40人、6月には50人、7月には60人に達して、練習場を探すのも苦勞するほどでした。合唱経験者が多かったので練習も順調に進み、最終練習日(9/15 戸塚区民文化センター)には通しのリハーサルを行い、これなら恥ずかしくない演奏ができるという感触を掴みました。

本番当日は、さまざまな素晴らしい演奏の一部として音楽祭を彩ることができて、参加者一同も皆で喜び合いました。本当に皆様ありがとうございました。

記念合唱団はこの日に解団いたしました。母体となった「牧陵合唱団」は10月から早速、月2回の練習に励んでおります。そちらの方にも是非ご参加頂ければ、この上ない喜びです。ご一報頂ければ(090-8048-2099)練習日程をお知らせ致します。どうぞ宜しくお願い致します。



緑ヶ丘高校吹奏楽部顧問 山口 一郎

奏へ向けての準備をするのは当然ですが、本当に大変なのは運営スタッフの方々です。人数も演目内容も本当にいろいろで、それを一つの流れにして時間内に収めるのは並大抵のことでは無かったと思います。企画、準備、出演者との折衝、当日の様々な運営、撤収作業等、関係者の皆様におかれましては本当にお疲れ様でございました。あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。



🎵 感激の「ぜんりょく音楽祭」 上田 恭久 (高19期)

感激の音楽祭でした。企画、演奏、演出などすべて完璧です。ぎっしりの観客席から出演者への熱い応援で観客と舞台が一体となり、最後の校歌合唱まで息つく暇ありませんでした。休憩時間中も終演後も「さすが緑ヶ丘、来て本当によかった。」との会話が、そこかしこで交わされていました。緑高の伝統と実力を余すところなく発揮した感服の100周年記念事業でした。

私は、音楽の故・田頭喜久彌先生着任と同じ昭和39年の入学です。吹奏楽部と合唱部に所属し、昼休みと放課後、練習に励みました。今回、両部の先輩、同輩、後輩ほか皆様の素晴らしい舞台を鑑賞し、たくさんの方々とお会いして感動をともにできたことは、この上ない喜びです。卒業生の皆様は、時空を超えて在校生時代に戻り、続々と優秀な人材を輩出している母校に、より一層の誇りと親しみを持たれたことと存じます。

音楽祭の大成功を機として、緑高は次なる100周年に向けて着実な一歩を踏み出しました。事業委員会の皆様の熱意と努力に、心から感謝申し上げます。

これからも母校に声援を送ってまいります。横浜緑ヶ丘高校並びに牧陵会の限りない発展をお祈り申し上げます。



🎵 知られざる緑高史を語って 室井 三紀 (高29期)

10年前、牧陵会90周年音楽祭で、緑高の歴史を琵琶で語ることになり、震災、戦争が緑高の歴史に強く影響を与えていることを知りました。その後、緑ヶ丘高校の90周年の舞台にも呼んでいただき、当時の校長先生の書かれた台本のもと、在校生の皆さんの緑高史の朗読、演奏に琵琶で参加させていただきました。そして迎えた100周年の音楽祭。今回は21期の久保田芳樹さんの企画台本で進めていくことになりました。二度の廃校の危機を中心に書かれた台本でした。琵琶としては、どう諸行無常を絡ませてゆかかという所がポイントでした。17期の小島和子さんが時代にそった童謡を選ばれ、照らし合わせ皆で話し合い、久保田さんが映像を選ばれていく。実行委員長の22期中山敏章さんが、内容をまとめ皆さんに発信。素晴らしい歌い手の方、ピアノの方、35期鴨川太郎さんのお力も大きく、迎えた当日は、100周年事業委員長の池田さん、裏方の皆さん、卒業生の音楽家の皆さん、合唱団の皆さん、在校生の皆さん、の母校への思いを感じ、語らせていただきました。全てのプログラムを終えた後に感じた一体感は忘れえぬものとなりました。



🎵 ぜんりょく音楽祭に出演して 鴨川 太郎 (高35期)

10年毎に開催されてきた緑高の周年音楽祭には、30年前の70周年記念から出演させていただき、今回で4回目となりました。音楽関係でご活躍の緑高卒業生の皆様と旧交を温める場として、また新しい巡り逢いの場として、毎回楽しみに参加させていただいています。

今回も前回に引き続き、舞台監督の任に当たられた21期の久保田芳樹先輩によるシナリオで、大変すばらしい企画だったと感慨を深くしています。若々しくパワー漲る現役の緑高生から、優秀で前途有為な若手音楽家、そして熟年パワー炸裂で人生経験の滲む諸先輩方の演奏に触れ、大いに刺激を受けました。緑高の年輪と輝かしい未来が感じられ、満員の音楽堂も大いに沸き、100周年に相応しい記念の音楽祭となったのではないのでしょうか。

緑高の現校長が高校時代の同級生だったというのも驚きでしたし、音楽祭に駆けつけてくれた同級生たちも昔と変わらない面立ちで、思いがけず還暦の嬉しい同窓会ともなりました。

今回の企画から運営まで、牧陵会の皆様には大変お世話になりました。あのように盛大な祭典が挙げてきたのも、ひとえに牧陵会の皆様の熱意とご尽力の賜であったと感謝の念を新たにしています。



🎵 緑高に行ってよかった! 鈴木 瑤子 (高65期)

緑高に行ってよかった! と改めて実感した日でした。

緑高では、お互いのことを思いやりながら、確固たる自分を持った友、温かく見守ってくださる先生方と出会い、大きな影響を受けながら、自分の夢へと全力で向かっていくことができました。

今回の出演のお話をいただいた時、また母校と繋がれること、そして共に高校生活を過ごした小泉文佳さんと演奏できることが、大変嬉しかったです。文佳さんとは、高校時代の関わりは薄かったのですが、卒業後に意気投合し、一緒にコンサートを開催したりしています。

今回演奏した「Time Goes By」は、時を経て変化するもの・しないもの、また過ぎゆく時間に傷つけられることもある、逆に救われることもある、そんな思いをモチーフにしています。その曲を、世代を越えて開催されたぜんりょく音楽祭で演奏できたこと、大変光栄に思います。今回は残念ながら、文佳さんとの共演は叶いませんでしたが、次は必ず二人で出演したいと思います。

100年間紡いできてくださった、温かくも自立した精神を育む緑高を、これからも繋いでいけますように。そして、私たちを育ててくれた緑高に心からの感謝を込めて。



🎵 ぜんりよく音楽祭に参加して 小島 和子 (高17期)

私は企画委員とは言え「ぜんりよく」のタイトルを決定した会議からの参加で、第II部の担当という事を初めて知りました。出演者(声楽・ピアノ)のメンバー、演奏時間は決定済み、選曲とその演奏者を決めお願いする役でした。演奏は「合唱」でとの事に困惑いたしました。音楽大学(院)の声楽専攻では、受験から卒業まで実技は、歌曲(伊・日・独 他) オペラのアリア 他のソロ・アンサンブルを原語で学び、演奏者として活動されている方々に「合唱」でとは考えられない事でした。そこでまず短時間内に旨く嵌るよう選曲しソロ・アンサンブルを基本に考える事に致しました。けれどもその難しさに辞退する事も考えておりましたが出演者の一人から『あなたがやらなくてはだめだ!』と何回かお電話で励まされ、ふと思いつきましたのは「童謡・ホームソング」他をストーリーの時代背景の曲にしたら? と。私の40年の活動「横浜童謡協会」(~童謡の継承&普及~)が活かせるのでは……? と考え行動に移す事に致しましたが、それがソリストに受け入れられるのかは、心配でした。けれども歌手、ピアニストの皆様のご理解とご協力、『楽しかった!』のお言葉を頂き、第II部のフィナーレの♪乾杯(篠崎義昭氏のソロの後)出演者全員が最後のリピートのフレーズを歌い出しました時、私が会場に向かい指揮を始めると会場のお客様も加わり大合唱になりました。ステージと会場が一つになり温かい空気が流れ、出演者にとりましても、心に残る楽しいステージとなりました事、皆様のご協力の賜と御礼申し上げます。



🎵 ぜんりよく音楽祭に参加して クラシックギター部

9月23日、横浜緑ヶ丘高校百周年を記念した「ぜんりよく音楽祭」が神奈川県立音楽堂で行われました。緑ヶ丘卒業の音楽家の方々が出演する中、クラシックギター部は現緑高生として出演し、合計3曲を演奏させていただきました。

牧陵会が主催した今回の音楽祭ですが、生徒たちにとって何代も上の卒業生、先輩にあたる方々と関わるのはとても貴重な機会だったと感じています。管楽器から弦楽器、歌とさまざまな音楽に触れて、部員もみな驚き感動していました。そして私は、今日の前で演奏している方々がかつて自分と同じところに立っていたんだ、同じ高校の生徒だったんだということを改めて思い衝撃を受けていました。自分たちの代からもこんなふうの世界で輝くような人が出るのだろうかと思うと、将来が楽しみで仕方ないです。

音楽祭の最後に行われた全体合唱は迫力のあるものでした。私たちが普段関わる3世代を超え、何十年に渡る世代での合唱に参加したことは人生一度きりの経験だと思います。クラシックギター部としても、今回ほど大きな舞台でたくさんのお客さんの中で演奏したことは初めてで、本当に良い経験になりました。ありがとうございました!



🌿 新任部会長抱負

■ 青年部会の取り組み 田原 正崇 (高44期)

現在青年部会長を務めさせて頂いております、高校44期の田原正崇と申します。

牧陵会の最初の印象は、大先輩のOBOGの方々を中心に活動されておりほとんど若手の関与がほとんどないこと、また会員数の分布も大先輩の方々が大半を占めており、折角同じ緑高を卒業したOBOGが沢山いるにもかかわらず縦の繋がりが希薄でもったいなさ過ぎるというのが正直な印象でした(私は公認会計士事務所をやりながら、ベンチャー企業のCFOをやっておりますが、この歳になってようやく緑高OBOGの縦横の繋がりのありがたさを身をもって体感していますので、もっと早くこの財産に気付いていれば。。。と正直後悔しかありません)。



とはいえ牧陵会に入門したばかりの若輩者の私にできることは多くはなく、先輩方々が長きに渡って大切に紡いでこられた牧陵会

の歴史、伝統、よきカルチャー等を大切にしながら何かできることがないかを真剣に考え始めるようになり、そこで発案させて頂いたのが「青年部会」の立ち上げ(2023年の牧陵会総会にて承認)でした(私は既に青年と言える年齢ではありませんでしたが。。。汗)。

青年部会を立ち上げたところまではよかったのですが、何か大きな成果を出せているわけでもなく、若手(私よりももっと若手の方々)とどのように接点をもち、どのような需要があって、どのように仲間を増やしていくか等、まだまだ課題も多く、未だに手探り状態なのは事実ではありますが、今後は下記のようなことに取り組んでいきたいと思っています。

- ・学生のバイト、インターンの紹介
- ・進路・就職・キャリア相談(OBOG企業訪問含む)
- ・ビジネスマッチング
- ・その他需要に応じた(若手中心の)各種イベント

とはいえ、個の力には限界があります。是非創部期の青年部会のメンバーとして一緒に活動してみませんか? 先輩後輩の縦へ、同世代の横への繋がりの一助に是非!

私もまだまだ現役で働いていますが無理のない範囲で活動させて頂いておりますのでご安心を! 少しでも興味を抱いて頂けましたら是非一度牧陵会(電話:045-664-9020またはe-mail:bokuryoukai@gmail.com)までご一報を!

事業部会長 中村 ひとり (高26期)

卒業して50年になる節目に牧陵会に関わる事になりました。高校26期卒になります。仕事を通じて知り合った緑高の先輩と同好会を立ち上げたことがきっかけで、関わる先輩方のペースにうまく乗せられこのたび事業部会長という大役を担わせていただくことになりました。



2023年2月に突然麻痺をする難病を患いましたが、3度の手術と半年のリハビリでなんとか歩けるようになり、今では完全に仕事に復帰しております。入院中に牧陵会の先輩が見舞いに来てくださり、退院後にはお祝いをしてくださり、先輩には恩返ししなければいけないなと思っていたところに牧陵会を手伝わないかとのお誘いを受け、良い機会だと思いお引き受けした次第です。

高校時代は劣等生の私ですが、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

牧陵校史資料室運営副部会長 小島 淳子 (高32期)

牧陵校史資料室運営副部会長を拝命いたしました小島淳子(高校32期)と申します。横浜緑ヶ丘高校に新校舎が建設され、1階フロアに牧陵校史資料室ができて、早10年を越す時が流れています。当時副校長として勤務していた私は、故人となられた田中時義校長が、大変熱心にこの資料室を準備くださったことをよく覚えています。この部屋は、私たち卒業生にとって心の拠り所であると共に、在校生にとっても母校の歴史を知り、先輩方とのつながりや受け継がれてきた伝統の尊さを感じる場所となっています。微力ではありますが、部会長である片倉正一様と共にこの資料室の運営に取り組んで参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

**広報部会長 西尾 匡弘 (高33期)**

本年6月の牧陵会総会で広報部会長を拝命しました高校33期の西尾匡弘です。正直なところ、これまで牧陵会との接点がほとんどなく、その活動に関して右も左もよくわかっていません。とはいえ、小松崎前部会長(高校21期)はじめ諸先輩の築きあげられてきた経緯も踏まえつつ、役割を担わせていただきたく思います。広報部の重要な仕事である牧陵新聞の発行とホームページのあり方なども今後の課題だと感じています。100年を超える歴史を持つ緑高の大先輩から現役まで広い世代の皆様にかかして情報をお届けするか、皆様のご意見などいただきながら進めていきたいと思っています。皆様の暖かいご助力をよろしくお願いいたします。

**総務会員部会長 丸茂 健一 (高44期)**

この度、総務会員部会長を拝任いたしました高校44期の丸茂健一です。私は、大学卒業後、出版業界で編集・ライターの仕事長く続けています。この度、横浜緑ヶ丘高校が100周年を迎えるにあたり、100周年記念誌をつくるということで、声をかけていただきました。そして、記念誌制作の会合で牧陵会に入入りするようになり、先輩の皆さんと交流を重ねるなかで、総務会員部会長の仕事を任されることになりました。高校卒業後、30年以上経ちますが、自らの経験を駆使して、母校に貢献できるのはうれしいものです。何事もお縁ですので、会員ネットワーク拡大に尽力したいと思っています。よろしくお願いいたします。

**事業部会副部会長 田原 正崇 (高44期)**

はじめまして、事業部会の副部会長と青年部会長を兼務させて頂いております、高校44期の田原正崇と申します。牧陵会へのかかわりは、高校卒業30周年のメモリアル同窓会を開催する際に、牧陵会から補助金を頂けることを知り、そのご挨拶に伺ったのが最初だと記憶しております。



牧陵会の存在だけは知っていましたが、どのような活動をしているのかも全く知りませんでした。そんな中どんな活動をしているのかの興味があり牧陵会の役員会に陪席させて頂いたことが牧陵会の運営サイドへかかわりのスタートでした。あれから2年、まだまだ課題は多いですが、牧陵会の若返り化や若いOBOGの方々と先輩方々を繋げていくことを最大のミッションとし、幅広い世代のOBOGにとって魅力のある事業の企画・運営を実施して参りたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

事業部会副部会長 砂川 裕美 (高46期)

この度、事業部会副部会長となりました46期の砂川裕美です。同期から声をかけられ、牧陵会に関わったのが、約5年前。卒業してからその時まで、同窓会の補助金をもらえるということ以外で、牧陵会という存在を意識したことはありませんでした。そして、2年前から出席するようになった役員会で、社会で活躍する多くの先輩方の存在を知り、未来を担う若者と繋がりたいという思いが沸々と湧いてきました。



46期の私も牧陵会の中ではまだまだ若手。会の発展に寄与してきた先輩方の力を借りながら、会員の少ない大学生から50代の卒業生にとって魅力のある新たな事業の提案・実施をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



青春スクロール

■ 高校時代の思い出

田辺 昇 (高6期)

私の手元に一冊の生徒名簿があります。先日本箱を整理したら出てきました。表紙には「昭和三十六年度(1951)」と記されています。この年に高校6期の私達は入学しました。幸いなことに入学試験はなく中学卒業間近に一斉試験がありその結果によって合否が決定しました。当時は学区制で有り緑ヶ丘高校へは港、大鳥、根岸、岡村、国大付属が学区内の中学校でした。名簿の各人の名前の下に出身中学が明記されています。3年生は旧制中学ですから男子のみ2年生と私たちの1年生は新制中学ですから男女共学です。



当時の印象としては3年生は怖かった。運動会の練習時に校歌や応援歌の音が小さいとか旗の振り方が悪いとかで何回もやり直させられました。

入学して気づいたことには先生がお年寄りであるとの印象です。中学時代は学校を卒業した年に赴任して来られましたので若い先生も居られました。それに緑ヶ丘高校は35名の先生の中で女性の先生は3名、家庭、保健と社会、体育それに音楽の先生。事務員の方に女性がお一人おられました。

今回は先生方を違った角度から書いてみました。それはあだ名を持っておられる先生が多かったことに気づきました。あだ名は誰かが作り年月をかけて受け継がれ生徒の間に広まっています。私の兄は高3期ですので問いただしてみましたところすでに同じあだ名をつけられていました。

幾つかご紹介します。副校長の根も八、国語のえっぽん同じくいん鶴、社会のお釜、数学のえいか、ビンちゃん、英語のポーズ、イートン同じくデン助、パイ助、これらのあだ名はどうやら風貌や口癖からつけられたようにも思えます。生徒の間では人気がありました。

昭和26(1951)年は戦後の混乱期も収まり食糧事情も改善されましたが1950年に始まった朝鮮戦争のためか横浜には戦後の米軍基地がそのまま残されていました。校庭も米軍のカマボコ兵舎が立ち並び鉄線越しに習いたての英語で年齢もそう変わらない若い米軍兵士に話しかけたりしてました。

運動場もなく運動会は対面の矢口台の広場で行われました。3年生になった時に校庭が返還され運動会を広々とした校庭で行い、3年生全員で民謡を踊った記憶があります。高3の時に体育館が出来文化祭が行われ、音楽や演劇、ダンス等が行われました。

新校歌は3年の秋ごろ作られたと思います。それまでは「浜の本牧」の旧中学校歌を歌ってましたので、私たち6期生には「浜の本牧」の方が今でも馴染みがあります。今年1月の牧陵会新年会で校歌を歌いましたが、その時にも思いました。いまは高6期も89歳となり他界した方々も多く、同期会は行うことが出来ません。親しい仲間との交流を続け昔話に花を咲かせています。以上拙文ですが思いつくままに書きました。

■ 卒業生の思い出

平坂 忠 (高15期)

私には緑高での思い出が幾つも有り、どれも懐かしいエピソードばかりで、とても一度に書き切れません。そこで三つ選びました。何よりも先ず母校に感謝している事から始めましょう。

其れは今から60年前に遡る1964年の話。本来ならば成績席次がビリで落第の筈なのに、私の様な学校の食み出し者を卒業させてくれた事なのです。

当時職員会議は私を落第させるさせないで大層に揉めたそうですが、此処で今学校側の事情を推量する興味はあっても、此の稿の主旨では有りませんので省き、私の側のみ記しますと、先生方の判断に落第させない意向が多かったお陰で、私は大学受験資格を得られ、東京芸術大学への受験が叶いました。従って此の母校の寛大さが有ったればこそ、以降の私があったと言之る訳です。

私は1960年に入学し音楽部と体操部に所属しました。この年の体育祭ではオリンピック選手達に来演して頂き、鉄棒や飛び箱、床運動等を共に演じた事は、鮮やかに甦りません。

平行棒の上手な同学年部員のM君は小学校から知っていますが、この後突然一家揃って北朝鮮へ行く事になったと言い出したのです。両親の御国では家に無料で住め、大学も無料で学べるとの帰国勧誘謳い文句に、向学心の強かった彼は釣られてしまったのでしょうか。年が明けると部員達の反対意見を押し切って、彼の国へ渡ってしまいました。楽しかった事も遣るせない寂しかった事もあった体操部での思い出です。

音楽部では県立音楽堂にて合唱コンクール参加出場も然る事ながら、何と言っても2年秋の文化祭で日本オペラ研究会(現日本オペラ振興会)がまだ小さなグループを組み、学校回りをして日本創作オペラ紹介普及活動をしていた頃、故音楽教師鈴木辰技先生の御助力で企画、出演料7万円也の日本オペラ研究会オペラ公演を、緑高の講堂で実現させた事は大きな思い出として記憶に留まっています。



著書紹介

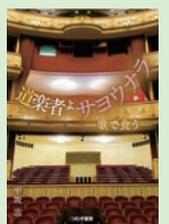
～世界で活躍する声楽家を目指すならば、これを読まずして挑むことは、無謀なことだと私は思う～
道楽者よサヨウナラ、

此の本は全ての若者に当てはまるが、特に将来声楽家を志す者には、本当になりたければ初心を通す事である。

更に日本で道楽と見なされているオペラを歌い、それで並みの生活が出来る収入を得、安定した老後を迎えられる。此のオペラの本場の様な職場を確保する為に全力でぶつかり、道楽からサヨウナラをして欲しい、との思いを込めて書かれた物語である。

道楽者よサヨウナラー歌で食うー！平坂忠！本！通販！Amazon

<http://amzn.asia/d/0mbVBMI>



■ アメリカが近かった緑ヶ丘

石川 義弘 (高29期)

1977年に横浜緑ヶ丘高校を卒業し、あっという間に50年近くたってしまいました。卒業生の一人として緑高の思い出を述べさせていただきます。

緑高は、別名ハマの学習院で、旧制三中からの伝統をもつ名門校です。伝統的に三中生は制服のポケットには手を入れて歩かないんだと、厳しく教えてくれた先生もいらしたのですが、同級生もみな寒い日にはしっかりと手を突っ込んでいました。高校3年の時は一橋大学に憧れて文系でしたが、急遽理系の、それも医学部へと進路変更しました。その時の担任だった故石井壽雄先生は、いろいろお世話になった恩人です。いわゆる問題はすべからず答えを出すだけではなく、エレガントな解答を考えなくてはならないと何度も言われました。全ての課題には多数の解決法があります。その中で、最大限にエレガントな方法を見つけるのが大事と、その教えは今でも大切にしています。

当時の高校の周りは米軍住宅地で、アメリカ人が普通に山手駅を使っていました。山手や本牧地域では、アメリカ文化が日本と混在していました。今なら当たり前の風景が珍しかった時代です。それもあってか、大学進学後にはアメリカに行ってみたくなり、アメリカの医学部に学生留学しました。当時は医学部の学生留学はとても珍しかったのですが、前例が無いからしないのではなく、自分が前例となればあとが簡単になると教えられました。今ではアメリカの大学医学部への学生留学は当たり前となっています。その後も長きことアメリカの大学で働くこととなり、病院では経済的な困窮者を対象としたクリニックを担当しました。日本は皆保険制度で医療費が安いのでわかりにくいのですが、むしろ日本の医療の方が世界的には例外的に優れていると考えるべきです。

たくさんの経験を積ませてもらいましたが、私の経験のルーツは50年前の緑高にあると思います。今では米軍住宅もなくなりましたが、近くを通ると当時を懐かしく思い出します。



校長、香川女子師範校長を歴任し、52歳で横浜三中校長に赴任しました。そして創立当初の数々の苦難を乗り越え、昭和3年3月、無事に第一回卒業式を迎えたのですが、なんと第一期生を送り出して9か月後の昭和3年12月、突然、退職の意志を明らかにしたのです。職員・生徒にとって実に青天の霹靂でした。そしてその理由が(以下、引用は六十年史より)

「横浜三中に約六年。長男も東大を出て就職、長女は嫁いで家事の係累がなくなった。ソロソロ引退して所好の易と謡でも楽しみたくなったので」

というのです。まだ57歳、当時は定年制がなかったので、他校の初代校長には70歳を超えても校長をしていた人もいる中で、あまりにも早い退職、そしてなんだかなあ、と思える退職理由なんですよ。ところがそのあとにこうあるのです。

「藤村は横浜三中を退職後、故郷の旧藩主津軽家の家令となるが、それも2か年でやめ、以後の余生は悠々自適、専門の易学の研究に励み、数冊の著書をあらわす……」

家令とは貴族などの家において、その資産や雇用人を管理する重要な役ですよ。どうやら趣味の易や謡に打ち込むはずだったのですがちょっと違うようです。しかしこのへんの事情について、六十年史にはこれ以上は書かれていません。

ところが本校元教諭の川手徹氏が、昭和6年に死去した一戸将軍の伝記(昭和7年)にそのへんの事情が書いてあるのを見つけました。

これによると、大正から昭和にかけて藩主夫妻の相談役を担った人物として、津軽出身の2人の人物が登場します。一戸兵衛将軍と珍田捨巳伯爵です。この相談役を津軽家では家政協議員といっていました。例えば家令を推薦するのも重要な仕事でした。

そしてこの二人が家令に推薦したのが、藤村与六だったのです。藤村与六としては、郷土の大先輩である珍田・一戸両氏の勧めは断れずに、校長を退職して家令として津軽家に入ったのでしょう。ところが役宅に引越した翌朝、珍田伯が亡くなってしまいます(4年1月)。さらに6年9月には一戸将軍も亡くなり、この頃、藤村も家令をやめてかねてから目指していた悠々自適の生活に入ります。

このように藤村校長は気ままな理由だけで急に辞めたわけではないことがわかります。そして初代校長として横浜三中の経営にいかに情熱を傾けていたかが、校歌との関連でわかります。彼は、大正14年の2月の校舎移転披露会の直後に「三中校歌」を作詞しています。調べてみると、県内の他の旧制中学で、校歌をこんなに早く制定したところはないですし、校長自ら作詞した例もありません。最後に2人の経歴を。

- 一戸兵衛(1855～1931、弘前藩士の長男)
陸軍教育総監、各種師団長を歴任、陸軍引退後は学習院院長、明治神宮宮司、在郷軍人会会長
- 珍田捨巳(1857～1929、弘前藩士の長男)
外務次官、駐米大使、パリ講和会議での全権委員、枢密顧問官、皇太子訪欧時の訪欧供奉長、その後、宮中に入り、東宮大夫、皇后宮大夫、侍従長

校史資料

■ 藤村校長早期退職の事情

片倉 正一 (高23期)



横浜三中の初代校長に就任した藤村与六氏は弘前に生まれ、幼少の頃に弘前藩の馬廻り役の下級武士の家である藤村家の養子となりました。青森師範、東京高等師範を卒業後、鳥取中学教諭、神奈川師範主事、彦根中学教頭、名古屋の明倫中学教諭、高知師範教諭、熊本女子師範校長、大分師範

2024年 ～日々是好日～

📌 掲載記事にご興味のある方、就職活動・お仕事・趣味など、投稿者とお話してみたい方は、お気軽にお問い合わせください。

greencommunity1923@gmail.com

(担当：砂川、山崎：46期)

※連絡先記載の投稿者には直接連絡可能です

■ 緑高に感謝!

藤本 彰 (高38期)

緑高時代は軽音楽部でパートはドラム、ヘビメタやフュージョンを演奏していました。部員は皆、必ずしも品行方正とは言えず、今では考えられないことですが、合宿や文化祭の打ち上げでは堂々と!? 大人の飲み物で喉を潤したり、授業を抜け出して元町に遊びに行ったりしたこともありました。そんな事が許されたのも緑高生が先生や地域の方から信頼されていたからだと思います。

大学卒業後は金融機関に就職し地方勤務も経験しましたが、仙台時代には軽音仲間が遊びに来てくれて、約10人で1泊2日の東北旅行を楽しみました。先日も3年時の同級生を中心に集まったばかり。平穩無事に暮らしている今の自分や素晴らしい仲間がいるのも緑高のおかげです。

緑高に感謝!



■ 数学とともに歩んだ3年間

松原 裕介 (高46期)

緑高を卒業してから30年経ちましたが、振り返ると、数学に魅了された3年間の思い出です。2年生の時は岡部先生、3年生の時は工藤先生から、単に公式を暗記するだけでなく、その公式が成り立つ背景や意味について考えることを通じて、学が喜びを教えてくださいました。その経験をもとに大学では数学科で学び、その後、金融業界に就職して現在に至っています。また水泳部でのシーズンオフの長距離走の練習も特に印象深く、今でも趣味でマラソンを続けています。人生も後半に入りますが、同窓会運営や牧陵合唱団への参加を通じて、私の経験が少しでも母校のお役に立てる日が来ることを楽しみにしています。



■ 「羊飼いのすゝめ」

草野 秀剛 (高46期)

北海道・十勝・上士幌町で羊飼いをしています。

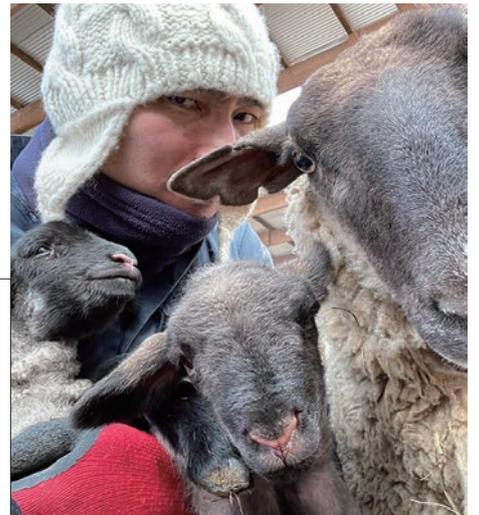
「羊を飼って暮らしたら素敵だな」と思い立ち、新卒から勤めていたSI企業を辞め、30歳になる年に帯広畜産大学(学部)に入り直し、1年半で中退。その後、実習を経て農地を探し、新規就農してから15年が経ちました。

現在は、個人事業主、雇用人なし、繁殖母羊100頭、放牧地9haという規模で羊肉、羊毛を生産しています。元本(母羊)が毎年早春に産む利子(仔羊)で生活しているような感じ。実際は借金まみれだけど!

国内の羊の飼養数は約2万頭と絶滅危惧種の水準で、流通する羊肉は99%以上が輸入です。

美味しい羊肉にご興味ある方は「**ゴーシュ羊牧場**」で検索!

SNSフォローしといてな!



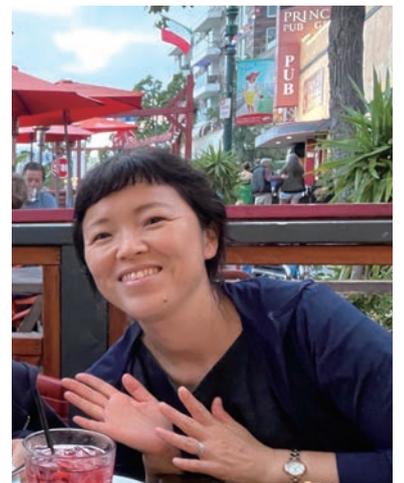
■ 懐かしい味

日野 (旧姓田島) 牧子 (高48期)

私はいま南カリフォルニアに住んでいます。他地域と比べて気候も治安も穏やかなこの町には、世界各国から人が集まり、私のように日本から移住される方も多いです。そのため有難いことに大抵の日本食はスーパーで入手できますが、それでも幾つかは、たまに食べたくはなるがどうしても手に入らない、懐かしい味というものがあります。私にとってその一つが、緑高の学食の横で売っていたパン屋さんのパンです。

マーマレードのついたカステラをデニッシュ生地で包みチョコをかけたカステラデニッシュのようなパンが、私は大のお気に入りでした。それとマヨネーズ味の玉子サンド。二つでいったい何カロリーになるか、想像するだけで今なら躊躇いますが、そんなことお構いなしに当時の私はせっせとパン屋さんに通っては、友達と頬張ってました。

あれから幾年、巷ではブルーージェリーなるお洒落なパン屋さんも珍しくはなくなりましたが、私が食べたいのは学食の横のパン屋さんのパンです。今でも学生達はパン屋さん並んでいるでしょう。



■ 緑高100周年記念誌を担当 西川 由希子 (高56期)

高校時代は管弦楽部でヴィオラを始め、暇さえあれば音楽室で練習していたのを懐かしく思い出します。友達に誘われ見学に行った管弦楽部で、空きがあるからと勧められるまで名前も知らなかったヴィオラは、大学はもちろん交換留学先のドイツでもオーケストラに入るくらい大好きな楽器になり、たくさんの人との縁をつないでくれました。

大学卒業後は神奈川新聞社に入社。広告営業を経て、現在は自治体広報紙、地元企業・団体・学校の周年記念誌、PR誌などの制作に携わり、緑高100周年記念誌も担当しています。実家に届いた牧陵新聞で母校の周年を知り、何かお手伝いができればと学校や牧陵会事務局にご連絡をしてから早数年、制作が進む記念誌を見るたびにこのご縁をうれしく思います。緑高の100年を広く伝え、次の100年へ続く記念誌となるよう、完成まで精一杯努めます。



神奈川新聞社制作の記念誌など(一部)

■ 恵まれた環境に感謝 山縣 由佳 (高63期)

私は今、横浜にあるフットケアサロンで働いています。サロン勤務だけでなく、併設しているフットケアのスクールの事務としても働いています。

野球を観るのが大好きな私は、仕事が休みの日だけでなく、シフトを調整したりして観に行ってます。

以前、インストラクターや営業事務として働いていたこともありますが、そのときも野球を観に行きやすいシフトだったり、休みを取りやすかったりと、社会人になってからずっと環境に恵まれてます。

来シーズンもたくさん観に行きます!

リーグ優勝! そして日本一!

＼横浜優勝／＼I☆YOKOHAMA／



■ 緑高が大好き 暇野 拜 (ペンネーム)・齋藤 礼旺 (高73期)

幼少からよく読書はしてきたけれど、その頃の私は陸上部の選手として砲丸を投げていて、古典の成績は2だった。まずはそんな私がここにこうした文を寄せられることの不思議を喜びたい。そしてこの奇妙な因果を紐解いていくとき、母校はじつに特別な架け橋となってくれる。というのも、こんなにちに至るまで私に文芸創作を志させたのは他でもない、音楽を通して表現活動をしていた1年B組の級友たちだからだ。早くから音源を自作していたI君などはその筆頭で、私はそうした彼らの創作熱に触発されるかたちで、かねてより興味があった文芸の世界へ飛び込んだのだった。得てして、この度の賞は紛れもなく緑高の風土が私に授けてくれたものだ。私は緑高が大好きだ。



■ ペドウィンズ

三浦善、飯澤遥土、齋藤慎丸 (高73期)、堀川未羽 (高74期)

73期メインで結成されたバンドである「ペドウィンズ」の紹介です。

73期の三浦善、飯澤遥土、齋藤慎丸、74期の堀川未羽で結成されたロックバンド。

メンバーは全員横浜緑ヶ丘高校の軽音楽部で出会い、卒業後の2023年8月に結成。翌24年3月に1st.EP『坂道を上がって』、11月に1st.single「天国」をデジタルリリース。『坂道を上がって』内の楽曲「風をつなぐ」はApple Music公式が選ぶオルタナティブプレイリストに選出。

「天国」はCROSS FM「MISHMASH FRIDAY —金ズマー—」内の熱音コーナーにてオンエア。9月には初の自主企画である「遊牧会vol.1」を開催。素朴で温かく、どこか懐かしくもオルタナティブな一面を秘めたサウンド。



同期会だより

■ 高校7期 米寿を祝う集まり

片瀬 潔 (高7期)

緑ヶ丘高校第七期生の同期会に2万円の援助を頂き、大変有難うございました。お蔭さまで余裕をもって、米寿を祝う集まりを2024年11月8日に挙行出来ました。

同期会の集まりは毎年開催しておりましたが、コロナ禍で3年お休みし、昨年から再開しています。出席者数は年々減少傾向にあり、遂に今回は25名。米寿のお祝いと称するパーティーとしては寂しいように思われますが、例えば米国から一時帰国されている方等久し振りに参加された方もあって、出席者からは「多くの方とゆっくり話しが出来て楽しかった」と例年よりも満足したとの声も上がっていました。



■ 高校17期の皆さんの母校訪問

池田 加津男 (高21期)

9月5日高校17期の8名が学校訪問され、校史資料室案内として同行しました。ブラジル在住の御守さん(写真前列右)が来日しているので仲間で集まり、いろいろと集いの機会を設けたそうです。代表者から牧陵会に学校訪問の相談があり、学校の都合を受け、この日の訪問となりました。また、坂元校長から歓迎のご挨拶をいただきました。

在校時の先生方の写真の展示では思い出話で賑わうなど懐かしくご覧いただきました。

来校した方全員が間門小学校卒業生であり、同じ間門小卒業の私も加わり、懐かしくローカルな話題で盛り上がりました。



■ 高校30期 同期会

斎藤 眞二 (高30期)

過日11/23(土)に高30期の同窓会が8年振りに、横浜駅直結の崎陽軒本店4Fのダイナスティーにて開かれました。

当日は天候も穏やかで、懐かしい顔が118名集まるという大盛会となりました。

本来は夏季オリンピック毎に開催の計画だったのですが、コロナの影響で2020年開催が丸々1回飛んでしまい、この8年越しという開催の運びとなってしまいました。そのため、あまり集まらないのではとの懸念も有ったのですが、多くの方にお越しいただき、楽しい時間を過ごしていただけたと思っています。

校歌の歌詞も配付して、後半で演奏と共に歌唱しました時に、見なくても歌えると思っていましたが、2番以降はほぼ記憶がなく、配って正解と再認識しました。



■ 高校33期 同期会開催 還暦リベンジ

西尾 匡弘 (高33期)

2024年11月9日APAホテル&リゾート横浜ベイタワーにて高33期同期会を開催、128名の出席を得て旧交を温めることができました。定例でオリンピックイヤーには開催することとしていましたが、東京大会に合わせての開催はコロナ禍で見送り、今回は8年ぶりとなります。遠隔地の同期生のためにオンラインでの配信も試み、コミュニケーションこそ取れなかったものの、会場の雰囲気をお伝えすることができました。次回を4年後とすると時間が空きすぎるのではとの声もあり、次回はまだ少し早めに開催することになるのではないかと思います。



■ 高校35期 還暦同期会を開催

戸村 基久 (高35期)

2024年8月3日(土)、ロイヤルホールヨコハマにて、恩師3名、牧陵会から池田相談役にご出席いただき、高校35期同期会を開催しました。

コロナ禍の影響でしばらく同期会を開催できずにいましたが、ようやくコロナ禍が落ち着き、前回の同期会から7年ぶりの開催となりました。一方、コロナ禍の影響でオンライン化が進み、幹事の打合せや出欠の登録をオンラインで行うことができるようになり、便利さを実感しました。これにより、海外在住の人も幹事として参加してくれました。

今年は還暦に当たるためか参加者が非常に多く、急遽受付の人数を増やして対応しました。当日は最高気温33℃を超えるなか、同期生約180名が集まりました。さらに、滝口先生、鈴木先生、松岡先生からお言葉をいただき、高校時代の記憶がよみがえりました。

2時間半があつという間に過ぎ、最後に集合写真を撮って盛況のうちに会を終えました。

幹事：本城、磯橋、小林(大輔)、桑江、荒井、下条、戸村



■ 高校46期 卒業30周年 メモリアル同期会

稲邑 (横路) 純子 (高46期)

11月30日、横浜市のホテルザノットにて第46期生の卒業30周年同窓会を開催しました。卒業生約400名中、130名近くが参加し、恩師である先生方3名にもご出席いただきました。44期の元幹事のアドバイスにより、スムーズな運営が実現しました。当日は、46期生の活躍紹介やクラス・部活ごとの写真撮影、Zoomによる海外からの参加もありました。また、古い部室の修繕費用にもなる100周年募金を募り、皆様のご協力で134,500円が集まりました。

二次会では旧友との再会を楽しみ、絆を深める場となりました。この節目を迎えられたことに感謝し、これからも緑高の縁を繋いでいきたいと思えます。



■ 高校70期同期会開催

岡田 賢太・中村 裕一郎 (高70期)

2024年10月26日(土)、HOTEL THE KNOT YOKOHAMAにて、高校70期(2018年3月卒業)の同期会を開催しました。参加者はなんと同期168名、先生7名(+お子さん2名)、牧陵会の直井会長の合計178名でした!

成人式の際(2020年1月)以来の開催だったので、久しぶりに会う人も多かったと思いますが、皆さん高校生に戻ったかのように同期や先生と楽しくお話ししていました。

会では、それぞれのクラスや部活で集まって写真撮影をしたほか、完全ランダムでチーム分けを行い、クイズ大会を開催しました。「70期の学年だよりの名前は何?」「アンケートの回答者約80名の中で、授業中寝たことない人は何人?」など、70期にちなんだクイズを出題しました。賞品を目指して、どのチームも真剣にクイズに参加してください、非常に盛り上がりしました。

改めて、今回参加された先生、直井会長、そして同期の皆様、ご参加いただきありがとうございました! クイズ大会の回答で全チーム「また同窓会やりたい」と答えてくださったので、また数年後に開催しようと思っています!(卒業後10年記念かな?)



クラブOB会だより

■ Jubilee — グリーンの断片 横浜緑ヶ丘高校100周年 それぞれの表現展

小松崎 敏彰 (高21期)

高校32期から42期、5名の皆さんによる多彩な美術展示会が2024年8月7日より横浜高島屋にて開催されました。

開催初日はクリス智子さんによるギャラリートークがあり、開催の切っ掛け、作者それぞれの緑で繋がる作品への思い、母校緑高への思いを語られました。

出展の皆様

日本画 押山 治 (高32期)
ガラス 小西 潮 (高35期)
フェルト まえだ ゆぎ (高35期)
金工 木寺 由布子 (高41期)
言葉 クリス 智子 (高42期)



■ 第1回定期演奏会開催

緑ヶ丘高校高OBOG吹奏楽団 佐藤 颯 (高73期)

今年度より活動を始めた横浜緑ヶ丘高校OBOG吹奏楽団の第1回定期演奏会を12/21(土)に金沢公会堂にて開催いたしました。高65期～高76期の総勢55名で、「スタンダード」をテーマにクラシックからジャズ編曲まで、吹奏楽の魅力が詰まった曲目を演奏しました。多数ご来場いただきまして誠にありがとうございました。



■ 牧陵合唱団へのお誘い

代表 長島 好美 (高11期)

牧陵合唱団は緑高卒業生を中心に組織された混声合唱団です。昨年9月の「ぜんりよく音楽祭」では神奈川県立音楽堂の舞台にて総勢約60名で「水のいのち」という合唱曲を歌い上げ、今回16名で再スタートを切りました。現在は月2回(日曜日14:00～16:00または13:00～15:00)、磯子区の横浜市社会教育コーナーで練習を行っています。合唱指導で実績を積まれた相澤宏一先生(第18期)とピアニストの安藤江浪先生(第31期)の指導による2時間は、卒業生と共に歌う喜びを感じています。合唱の経験は問いませんので、興味のある方は是非参加してみませんか。

合唱団に関するお問い合わせは
bokuryochorus@gmail.comまで。

■ 第14回牧陵ゴルフコンペのご報告

— 余裕のある者は東京湾を望むパノラマを楽しんで —

記事編集者 山下 東洋彦 (高13期)

10月23日(水)に開催された第14回牧陵ゴルフコンペのご報告です。今回は、近くは上総湊を挟んで東京湾観音、遠くは三浦半島や富士山、横浜みなどみらいなど東京湾の雄大な眺望を望む東京ベイサイドゴルフコースで開催しました。



■ 牧陵ボーリング同好会 32回大会報告

林田 政義 (高15期)

令和6年11月22日(金)上大岡 アカファーボウルにて開催し、今回から集合6時・開始6時半とし、有職者及び若手の参加を期待。一方高齢組は体調不良等にて参加者が減少し、結果は20人にて開催しました。初参加は、直井会長、美濃副会長、43期工藤氏、63期徳光氏、そして応援団? 山崎愛氏にて2ゲームを楽しみました。優勝は工藤氏、往年の雄姿よろしく活躍。表彰懇親会は鍋を楽しみ、自己紹介・若手との交流会となり、9時30分解散となりました。参加者は写真にて紹介、次回は来春とし、ご案内致します。皆様の参加をお待ち致します。



■ バドミントン部OB会交流戦

矢部 忠継 (高42期)

2004年に設立された、三高・緑高バドミントン部OB会は20周年を迎えることができました。会の活動の一環として開催されている、現役生とOBの交流戦が11月24日(日)に本校体育館にて開催されました。OB参加者は上は80代から下は20代まで幅広い世代が集い、ダブルス、シングルスで熱戦が繰り広げられました。ゲーム後にはOBの長年のプレー経験から多くの現役生に向けたアドバイスが送られました。また、OB会費・寄付金の中から現役生強化のための支援金とシャトルが男女部長に贈呈されました。交流戦後には地学教室に移動し、軽食を楽しみながら懇親会が開催され、現役生・OB・顧問の先生方との間で交流がはかられました。

築50年近い現体育館での交流戦開催も今回が最後。来春に完成の新体育館はバドミントンコートが2面増えて8面取れるとのことで、より良い練習環境での競技力の向上が期待されます。





Project 2500

プロジェクト 2500 横浜緑ヶ丘高校の未来のために

牧陵会会費納入の現状について (2024年10月末現在)

皆様のご協力により、対予算に対し60.4%の納入をいただきました。昨年同月を対比してみると会費納入人数は226名の減少、会費金額は454,000円の減少となっており、寄付金も昨年より255,000円減少しております。これは2023年7月より緑高100周年県募金が並行して行われているための影響も大きいと思われる。

プロジェクト2500の目標人数2500名にあと1,044名のところ。

牧陵会活性化の礎造りにあと少しの皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

	収入予算		2024.10.31迄実績			あとこれだけ (3月迄に)	
	人数	金額	人数	金額	実施率	人数	金額
会費	2,500	5,000,000	1,456	2,912,000	58.2%	1,044	2,088,000
	(昨年10月末時点)		(1,682)	(3,366,000)			
寄付金		3,000,000		1,921,000	64.0%		1,079,000
	(昨年10月末時点)			(2,176,000)			
合計		8,000,000		4,833,000	60.4%		3,167,000
	(昨年10月末時点)			(5,542,000)			

【住所変更お届けのお願い】

本年8月の牧陵新聞配布に**272通 (配布総数15,238通)**の宛先不明による返送されました。皆様からの住所変更のお届けが多くなり返送数は減少しておりますが、転勤などで住所が変わる30代世代が宛先不明になることが多いようです。新聞は皆様と結ぶ大きなツールです。住所の変更は住居表示変更も含めお知らせいただければ幸いです。

◆住所変更届け出は、ホームページからのお届け、牧陵会事務所へ連絡 (FAX又は電話で) お願いします。事務所の開所は月曜日から木曜日、10時から16時のみです。電話でのご連絡は開所時間内をお願いします。

2025年度 (令和7年度) 牧陵会活動について

コロナによる制限がなくなり、新体育館の完成など明るい兆しが見えてきました。牧陵会の活動に一層若い世代に活動の中心に加わってもらい、新たな活動内容や手法を取り入れていきたいと思っております。今後とも学校との連携のもとに、魅力ある活動を推進していきます。今後学校内外の情勢の変化によっては変更の可能性もありますので、その際は牧陵会ホームページ等で早めにご連絡をいたしますので、ご確認をお願いいたします。

【予定される主な牧陵会活動】

2025年	5月23日(金)	学校創立100周年記念式典
	6月7日(土)	牧陵会定時総会
	6月	緑高祭への参加
	7月	スポーツ応援隊 (野球・サッカー)
	8月	牧陵新聞 (49号) の発行
	10月18日(土)	青春かながわ校歌祭への参加
2025年	11月上旬	牧陵緑のフェスティバル
	2026年 1月	新年のつどい

2025年は同期会開催を! 会員部会

◆同期会開催を計画しましょう (活動支援金の支給)

牧陵会の基本は親睦にあり、会員同士のつながりは同期会でのつながりが基本となります。会員の増加と会員情報の整備を目的として、牧陵会では同期会開催について1万円、特にメモリアル期の開催については5万円を支給して開催を支援しています。(敬老感謝同期会には2万円)

コロナ禍の3年間で開催中止を余儀なくされた期も、2025年には開催を計画されることを期待しております。

◆牧陵会の同期会開催に対する活動支援金の繰越認容について

3年間のコロナ禍において開催できなかったメモリアル同期会においても繰越して支援をできることとなっています。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

メモリアル同期会対象期 (通常1万円支援を5万円支援に)

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
卒業後2年 成人式メモリアル	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒	78期 R8年卒	79期 R9年卒	80期 R10年卒
卒業後5年 メモリアル	72期 R2年卒	73期 R3年卒	74期 R4年卒	75期 R5年卒	76期 R6年卒	77期 R7年卒
卒業後10年 メモリアル	67期 H27年卒	68期 H28年卒	69期 H29年卒	70期 H30年卒	71期 H31年卒	72期 R22年卒
卒業後20年 メモリアル	57期 H17年卒	58期 H18年卒	59期 H19年卒	60期 H20年卒	61期 H21年卒	62期 H22年卒
卒業後30年 メモリアル	47期 H7年卒	48期 H8年卒	49期 H9年卒	50期 H10年卒	51期 H11年卒	52期 H12年卒
卒業後42年 還暦記念メモリアル	36期 S59年卒	37期 S60年卒	38期 S61年卒	39期 S62年卒	40期 S63年卒	41期 H元年卒

敬老感謝同期会対象期 (通常1万円支援に敬老感謝金として1万円を加算して支援に)

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
古希 (70歳) 卒業後52年	26期 S49年卒	27期 S50年卒	28期 S51年卒	29期 S52年卒	30期 S53年卒	31期 S54年卒
喜寿 (77歳) 卒業後59年	19期 S42年卒	20期 S43年卒	21期 S44年卒	22期 S45年卒	23期 S46年卒	24期 S47年卒
米寿 (88歳) 卒業後70年	8期 S31年卒	9期 S32年卒	10期 S33年卒	11期 S34年卒	12期 S35年卒	13期 S36年卒

母校創立100周年記念特集特別号発行 協賛支援者 募集 100周年事業委員会

100周年記念事業にあたり、地域一般に配布される新聞社による記念特集号を記念式典に合わせて発行の予定です。

発行にあたっては、新聞媒体社と協力して、記事企画をすすめます。

公式の記念誌は学校の歴史を中心として編纂されてます。特集紙面は牧陵会の情報をもとに卒業生の活躍、学校の特色などフォーカスして、新聞媒体社が編集を進める予定です。

また、費用の負担は紙面の一部を協賛広告として、牧陵会が媒体社と協力して、協賛広告掲載者を募ります。

協賛広告について

紙面の下部の3分の1を広告とし、大きさにより負担額が変わります。(媒体社と協議することになります。)

連絡先 神奈川新聞社 クロスメディア営業局

広告デジタル部 島 優介

TEL : 045-227-0704

メール : y-shima@kanagawa-shimbun.jp

卒業生、関係者からの協賛支援のご協力をお願いします。

牧陵会事務所の場所・連絡先

関内駅北口から海側 (東) に徒歩200m「銀だこ」のビルです。

TEL/FAX : 0 4 5 - 6 6 4 - 9 0 2 0

メー ル : bokuryoukai@gmail.com

U R L : https://bokuryoukai.com

住 所 : 〒231-0014 横浜市中区常盤町3丁目24 サンビル6階C号

事務局の業務は、月から木曜日の10:00から16:00となっています。

【住所変更・お問合せ】はホームページの右上のボタンから

https://bokuryoukai.com/contact/

